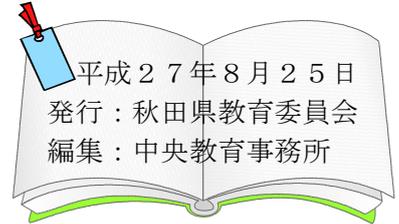


秋田県には4名の社会教育アドバイザーが配置されており、要請に応じて、『あきた県庁出前講座～家庭教育の充実～』を担当しています。

中央管内では、市町村教育委員会が推進する子育て支援のための家庭教育学級や講座等で、講話を通して家庭教育の啓発に努めています。ここでは、出前講座を活用した大潟村の取組をご紹介します。



平成27年8月25日  
発行：秋田県教育委員会  
編集：中央教育事務所

### ★大潟村教育委員会生涯学習班：家庭教育学級～乳幼児編～ ＜講話テーマ＞ 家庭で育てる『読書の芽』



期日：平成27年6月24日(水)  
会場：大潟村公民館(研修室)



この日の家庭教育学級には、乳幼児をもつ母親16名が参加しました。家庭教育の定義や家庭の役割について確認した上で、「家読」や「読み聞かせ」のポイントを学び、家庭で子どもの『読書習慣という花』を咲かせるための手立てを考えました。その後、公民館の【児童図書コーナー】から我が子に読んであげたい絵本を一冊選び、参加者同士がペアになって実際に読み聞かせをする演習にチャレンジしました。講話で学んだ読み聞かせのポイントを活用する場を意図的に設定したことで、参加者の研修意欲を一層高めることができました。同時に、読み聞かせの演習を通して、参加者同士の交流が深まりました。



【社会教育アドバイザーによる講話】

大潟村教育委員会生涯学習班では、講座の会場に隣接する部屋を託児室として用意し、乳幼児をお世話する子育てサポーターを4名も待機させていました。そのために参加者は安心して子どもを預けられ、講座に集中することができたようです。そこに主催者側の細やかな配慮が感じられました。



【子育てボランティアが待機する託児室を設置】



【児童図書コーナーで絵本選び】



【演習：ペアで読み聞かせ】

### 家庭教育学級担当の大潟村教育委員会生涯学習班：宮田征大さんに伺いました

♪ 幼少期の読書活動の推進をテーマにした講話を依頼しました。その理由は、子育ての悩みや問題を抱えている親にとって、その解決に向けて「読み聞かせ」による親子のコミュニケーションが役に立つと思ったからです。受講中、大島先生の話真剣に聴く親御さんの姿はもちろんのこと、実際に読み聞かせの演習では、我が子のために選んだ本のストーリーに感動して、読みながら涙する姿もあり、心を打たれました。また、受講後のアンケートでは、参加者全員から「今後もこのような学習の機会を設けてほしい」という回答をいただき、これまで以上に子育てへの関心が高まったことが、担当者としての何よりの喜びです。今後も親御さんの声に耳を傾け、現場からのニーズをしっかりと把握して、各家庭での子育てに役立つ家庭教育学級を企画したいと思います。

「子育て世代を支え、家庭教育についての学びの場を提供する」という役割を担う行政の在り方を大潟村の取組から学ぶことができます。大潟村公民館では魅力ある図書コーナーづくりにも力を注ぎ、利用者を惹き付ける整備に取り組んでいました。子育ての喜びを実感する研修を意図的に組み入れて、気軽に参加できる家庭教育学級や家庭教育講座を実施することは、保護者にとって自己研鑽と交流の機会となり、価値ある学びの獲得につながると思います。

平成27年度学校・家庭・地域連携総合推進事業として、中央教育事務所が主催する研修会は年間5回です。研修会は、テーマに添った話合いや演習を通して各市町村の事業関係者が情報や意見を共有するとともに、互いに交流を深めることができる絶好の機会です。

7月の「放課後子ども総合プラン指導者等研修会」は、外部講師による講義と実技（創作活動）の二つの内容で構成し、参加者にとってすぐに役立つ研修となりました。

## < 第1回 中央地区放課後子ども総合プラン指導者等研修会(B研修) >

期日：平成27年7月10日（金）  
会場：秋田県生涯学習センター

・対象事業（○放課後子ども教室推進事業 ○放課後児童健全育成事業）の関係者及び市町村行政関係職員計68名の参加を得て、次のような趣旨で実施しました。

<研修会の趣旨>  
放課後子ども総合プランに関わる指導者等を対象とした実技研修等を通して、日常の指導技術の向上を図ることや子ども理解を深めることにより、指導者等の資質向上に資する。



<開会行事>での 中央教育事務所 廣嶋 徹 所長の挨拶から

☆それぞれの地区で安心・安全な居場所づくりに携わる方々への感謝の言葉とともに・・・



子どもたちの生活は大きく変化し、直接友達と会って話すことを面倒と思う子どもが増えてきたと言われています。人のぬくもりや信頼といった本物の感情は、直接的なふれあいで得られるものであり、地域の豊かな自然も、実際に自然の中に出かけ、五感を使って初めて感動や素晴らしさを実感できるものです。放課後子ども教室と放課後児童クラブで、子どもたちの安心・安全な居場所を提供するとともに、学校ではできない体験や人とのふれあいを充実させていくことが、今強く求められています。両事業の連携を図っていくことが大切であり、このことが新しい「放課後子ども総合プラン」が目指すところでもあります。

### <研修Ⅰ：講義>

テーマ「保護者との良好な関係づくり」  
講師 臨床心理士・カウンセラー  
石山 宏央 氏



### <研修Ⅱ：創作活動>

テーマ「子どもと作る科学工作」  
講師 秋田県児童会館 館長  
後藤 節子 氏



【スライドで簡潔にポイントを示しての講話】

<キーワード> ■速やかな事実確認  
■誠意をもって丁寧に



【グループでの活動】

※事後のアンケートから  
参加者の「声」



【2名のサポーターと一緒に作り方の説明】

<作品名> CD ホバークラフト  
■机の上をスイスイ動く！！

☆ 分かりやすい資料と丁寧な説明を通して、保護者や子どもとの接し方と心掛けを学びました。  
☆ これまでの自分を振り返るよい機会でした。今後も、自信をもって対応していきたいです。  
☆ 目からうろこのご助言が大変参考になりました。  
☆ 事実確認がとても大切であることを重く受け止め、一人に対応しないように心掛けます。

☆ 作りやすい！おもしろい！楽しい研修でした。  
☆ 子どもは動きのある工作が大好きです。さっそく夏休みに自館の「エコ工作」で取り入れてみます。  
☆ 「科学」の不思議を説明しながら、職場でもぜひ子どもたちとチャレンジしたいと思います。  
☆ 【作る】& 【遊ぶ】～両方の魅力を体験することができて、充実したひとときになりました。

研修会で学んだ保護者との良好な関係づくりのための4つのポイント（①自分が健康で元気 ②子ども理解と保護者理解 ③見返りを求めないホスピタリティ ④自分自身の向上）やクレーム対応の手立て、さらには、子どもと一緒に楽しむことができる科学工作の体験は、夏休み中の業務でも有効に活用されたことでしょう。